

学術情報発信の推進について

1. 背景

近年，国立大学には，学内の教育・研究活動の公開性及び透明性を確保するために，インターネット等を活用した積極的な情報発信が求められている。

科学技術・学術審議会の答申『学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）』（平成 14 年 3 月 12 日）は，「大学等から発信される様々な学術情報が簡便に利用できるためには，総合的な情報の発信窓口（ポータル機能）を設置し，統一的な規約によって情報を発信する必要がある。このために，大学図書館が中心となって…情報発信のためのシステムの設計・構築を行う必要がある」と提言している。

また，平成 15 年 4 月 22 日版の本学の「中期目標・中期計画（案）」においても，情報公開等の推進に関する目標を達成するための措置として，「附属図書館は，学内研究成果等を電子的に蓄積し，発信するためのポータル（一元的窓口）「千葉大学学術情報リポジトリ（仮称）」を構築し，国立情報学研究所と連携を図りながら，情報発信を強化する」という計画が記載されている。

2. 附属図書館のこれまでの取り組み

以上のような背景の下，附属図書館では，本学で生産された学術情報の発信体制を整備するために，昨年 10 月に「学術情報の発信に関するアンケート調査」を実施し，さらに国内外の類似事例の調査を進めてきた。

また同時に，「中期目標・中期計画（案）」に記載されている「千葉大学学術情報リポジトリ（仮称）」の開発に着手した。これは，学内のさまざまな電子的学術情報（論文，冊子，教材，各種データ類，ソフトウェア，データベース等）を一元的に蓄積，保存，発信するための電子保存庫と呼べるシステムであり，平成 15 年 3 月にはそのプロトタイプ版が完成している。

3. 「千葉大学学術情報リポジトリ（仮称）」システムの概要

- (1) 「千葉大学学術情報リポジトリ（仮称）」に格納されるデータは，学術情報コンテンツ及び，検索・管理のためのメタデータ（コンテンツに関する情報，例えば，タイトル，作成者，キーワード，発表年等）から構成

される。

- (2) 学術情報コンテンツ及びメタデータの登録については、研究者自らが容易に行うことのできる登録システムを用意する。また、必要に応じて図書館職員がメタデータの確認、補足を行う。
- (3) 「千葉大学学術情報リポジトリ(仮称)」に蓄積された学術情報については、インターネットを介して、タイトル、作成者、キーワード等から検索することができる。また、コンテンツそのものを表示し、印刷することが可能となる。
- (4) 国立情報学研究所において構築が進められている「メタデータデータベース」とのシステム間リンクを通じて、「千葉大学学術情報リポジトリ(仮称)」内に蓄積された研究成果の認知度はさらに向上する。
- (5) 共同研究推進センターが運営する「研究者データベース」との連携も視野に入れる。

4. 今後の推進体制について

こうした取り組みをさらに押し進めるために、附属図書館長の下に、関連する諸課題について検討する「協力者会議」を設置し、「千葉大学学術情報リポジトリ(仮称)」を中心とした学術情報発信の推進をはかりたい。協力者会議の活動期間は、当面、平成16年3月末日までとし、16年4月以降については、新たな体制の下で推進活動を継続することとしたい。

5. 検討課題

- (1) 「千葉大学学術情報リポジトリ(仮称)」の管理・運営方針の策定
- (2) システム面の検討
- (3) 学内の関連する活動との連携

6. 今後のスケジュール

平成15年9月～ 「協力者会議」による検討開始、試行運用

平成16年4月～ 暫定運用開始

平成17年4月～ 本運用開始